

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
<b>I. 理念に基づく運営</b>	<b>22</b>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>	<b>10</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>	<b>17</b>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>	<b>38</b>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>	<b>13</b>
合計	<b>100</b>

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム谷山ゆめ
(ユニット名)	グループホームⅡ
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県鹿児島市下福元町1719-3
記入者名 (管理者)	日高 恭子
記入日	平成 19年 9 月 1 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念を今回みんなで見直しをし、グループホームが地域といかに密着し、協力し住み慣れた地域の中で安心した生活が送れる様にと内容を変更した。	○ 地域の老人会、子供会、おどりのボランティア、お花のボランティアと、いろいろ協力していただいている。これからはグループホームも地域の方々の介護技術の講習もしていきたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は手書きで理念をあちらこちらに貼り常に心受けとめてもらえる様に声かけし実践してケアの統一化を図っている。	○ 毎朝ひきつぎの折り、みんなで唱和して共有していく。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族にはもちろんの事地域の方々にも折にふれ来所していただき、理解してもらえる様にしている。 運営推進会議も2か月に1回、地域の方々をまじえて行っている。	○ 運営推進会議も地域の町内会長、老人会長民生委員さん等の参加をいただき、いろいろと御助言してもらっている。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	町内会に入っているいろいろな行事に利用者も参加しているので、皆さんとも理解してくださっているので、野菜や果物等気軽に持って来て下さったり、一緒にお茶も飲んでいる。	○ 隣近所の方々にも沢山の協力をいただいているので、その方たちが困っておられる事で、できる事はしてあげている。これからも手助けしていき、良いお付き合いができるようにしたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開所時より町内会に入会し、地域活動に参加し交流をしている。地域の皆さんもとても理解して下さり、とれたての野菜や果物等、気軽に持って来て下さり利用者の皆さんとお茶を飲んだり、お話し相手をして下さる。毎月踊り、お花のボランティアに来て下さっている。	○ 地域活動において、隣近所の方々はもちろんのこと、幅広く交流を深め、グループホームが地域の拠点となる様にしていきたい。子供たちとの交流もあり、ボランティアにも参加してもらっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の知り合いの方が沢山居られるので声かけし、出かけられない方々の為にホームに話し相手に来ていただいたり、子供達にも遊びに来てもらったり、ホーム側も出来る限り行事に参加し協力している	○	地域の方々に沢山協力をいただいているので、グループホームで、できる範囲のお手伝いをしたいと思っている。介護教室相談等。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価をすることによって見直しをする様心がけている。また、外部評価で指摘があった点については皆で話し合い改善に向けて努力している。	○	外部評価で指摘があった事については見直しをしている。評価員の方々が全員違う為、いろいろな意見をいただき参考にして改善していく様になっている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度、現在7回目を終り、皆さんの意見を取り入れ役に立てている。ホームでのお花見、敬老会にも参加していただき、一緒にホームでの取り組みをしてもらっている。	○	町内会長、老人会長、民生委員さんと地域の代表の方々に入っている。この他、地域の関係者の方々にも入っていただき、グループホームを理解していただくようにする。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の介護相談員の受け入れ、また谷山地区のQ&Aをお願いしたりして向上に努めている。	○	市町村からの要望があれば、協力していく。市町村とのかかわりをもっと深めていく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は研修などに出席し職員に会議の折報告している。現在必要な人はいないが、活用できるよう支援していく。	○	研修には何でも出席し、勉強していく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議の折ケース検討会する上で、虐待行為についても話し合い、確認する機会を持つようにしている。	○	どのような小さな事でも虐待行為が感じられたら、すぐに対応できるようにしておきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時には重要事項説明書、契約書を説明し、理解、納得していただいている。	○ これからも常に契約等する場合、家族・本人を交えて、対応方針を相談していく。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に何でも言える様な関係を保つようにしている。市からの介護相談員が入られることもあり、利用者の意見も聞けるようにしている。	○ 利用者との会話の中から本人の訴えをしっかり受け止める様にしていく。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康状態も常に報告し、常に家族との連携を保つようにしている。金銭管理についても来所の折、印をもらう様にしている。家族への報告の大切さを職員と常に話している。	○ ゆめ便りを3カ月に1回送っていたが、今回より、折々利用者のスナップ写真をとり、ハガキにして本人の一言もそえて送るようにした。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回、家族会議を開き、いろいろな御意見をいただき、出された内容については職員みんなで話し合い、運営に反映させている。日頃も家族の方と何でも話し合える雰囲気作りに心がけている。	○ 家族の方々から意見については、ミーティング・会議においてみんなで検討し、対応している。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議には必ず運営者が出席し、職員と一緒に考え、提案し、反映させている。	○ 職員の要望や意見、不満、苦情もどしどし出させる雰囲気作りを目指したい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	本人の希望はほぼ答えられる様、勤務調整をしている。また、職員間においても、話し合い、調整をできる様にしている。	○ 管理者は状況に応じた対応ができる様に通常のシフトには入っていないので、利用者の変化に応じた柔軟な体制がとれている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動については一番大事は事だと考えるので、最小限にしている。職員もまず楽しく仕事ができる様な環境作りに配慮している。	○ 常に利用者にとって環境の変化を考え、異動については特に注意を払っている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>地域密着型になり、地域での勉強会、また開催される研修にはなるべく多くの参加ができるようにしている。また、研修報告はミーティング会議において発表してもらい、皆で共有している</p>	<p>○</p> <p>実際の現場で働いている方々の研修ができる様に、谷山地区での勉強会を立ち上げ、皆で参加し勉強し向上にむけている。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県、市の連絡協議会にも入り質の向上に努めている。また地域での勉強会を、他のグループホームとの交流、事例検討会、研修を行い地域でのネットワークづくりをしている。</p>	<p>○</p> <p>同業者とのネットワークを作り、地区のお祭りにも参加している。これからもグループホームが地域の中心的存在になれる様に、皆で協力していく様にしたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>日常的に職員のストレスや悩みを把握するように努めている。また、親睦の場をつくり、食事会など行っている</p>	<p>○</p> <p>職員がまず楽しく働いてこそ、良いケアができると皆で話合っていますので、職員同士の人間関係を大切にしている。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者も頻繁に現場に来ており、利用者家族とのつながりも大切にしている。また、職員の資格取得にも支援している。</p>	<p>○</p> <p>職員の資格取得に対して支援している。</p>
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>まず利用者の相談を親身になって聴いてあげ、信頼していただき、なんでも話していただける様な関係作りを、心をこめてやっている。</p>	<p>○</p> <p>第一に信頼関係を大切に、いつも考えながら対応している。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>不安な事、困っている事等々なんでも相談していただける関係作りをし、安心して話していただく様に努めている。相手の気持ちを理解できるように。</p>	<p>○</p> <p>家族の不安、相談などを安心して話していただける様に関係作りに努めるようにしている。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族のこれまでの経緯、現在の状態をゆっくり話を聞き、本当にグループホーム入所が必要かどうか検討する。早急な対応が必要な場合は他のサービスを紹介したりしている。	○	いろいろなサービスが考えられる為、いろいろなパンフレットをそろえておきそのかたに合ったサービスを紹介できるようにしたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所の方々は、日頃から病院デイサービス、地域での馴染みのある方が多い。常日頃から相談を受けたりして関係作りに力を入れている。	○	急な入所希望の折には、数日体験してもらい、本人、家族と話し合いをして、決定していきたい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者のこれまで歩んでこられた中での苦しみ、悲しみ、喜び等知った上で共感しながら一緒に歩いていく様に努力してしている。また、いろいろな事を教えていただき普通の家庭生活の様に過ごすようにしている。	○	ある時は職員と利用者という関係でなく、親子の様に接し、穏やかな生活が過ごせる様にしていく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ゆっくりと話をしたり、一緒に食事をする中で教えてもらう事が多い。お互い協働しながら楽しく、ゆっくりと過ごせるよう声かけしたり、お手伝いしている。	○	業務に追われてしまう日もある為に1日1日を利用者の表情・様子をよく観察しながら声かけを忘れないようにしたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	認知症になる前、なつてからの家族と本人の関係を知り、それぞれの思いを受け止めてより良い関係が継続できる様につとめている。	○	長く面会に来られない場合には、こちらからまめに電話をしたり。利用者との会いに行っている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容室や、お店などに行きたいときに連れて行ったり、ホームの近所の方々との関係もでき、遊びに来られる。	○	ホームの地域の方も良く部落の行事に招待してくれ、ホームの利用者の方の顔を覚えてくれている。今後も、ほむの地域の方達との関係も大切にしていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握し、トラブルがおこる前に間に入ったり、悩みを聞いたりしている。	○	相性が合わない方もいるが、スタッフが間に入り、毎日の生活が楽しくなるよう支援している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所された方に対しては、本人、家族、関係者と連絡を取り合い、継続的な関係が保てるようにしている。	○	本人だけでなく、家族とも長期、継続的な関係を大切にしている。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ゆっくりしている時に、一緒にお茶を飲みながら家族のこと、本人の気持ちを引き出させる様な雰囲気作りに注意している。また、利用者同士の会話の中からも、本人の意向も見えてくる事がある。意思疎通が困難な方には、ご家族から情報を得ている。	○	日頃の生活の中から見えてくる行動や表情から、その方の思いをくみ取り、把握していく。センター方式をもっと活用していく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の会話の中でも、今までの生活暦を聞き取るようつとめている。短時間で把握しようとせず、長い時間をかけ家族、本人、関係者から生活暦を捉えていくようにしている。センター方式利用。	○	利用者のできる事、できない事への支援をもっと深めていく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	スタッフ間で小さな事でも引継ぎをし、1人ひとりの現状をスタッフ全員が把握し、支援できる様につとめている。業務日誌を利用し、1日の過ごし方を記録している。	○	できる事がまだまだありそうなので、できる事への支援をもっとみつめていく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃のかかわりの中から本人の思い、意見を聞きだし、また、家族の要望を聴き、スタッフ全員で意見交換や、モニタリングをしながら介護計画を作成している。	○	医療面においても、主治医の意見をもっと取り入れていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日の生活の中から介護計画との関係をチェックしながら、1ヵ月ごとに評価し、見直しをしている。状態が変化した際には終了する前であっても検討・見直しを行っている。	○	月に1回評価するようにしているが、家族にもその都度意見を聴き、要望を入れていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中と夜間に分けて記録している。日中は業務日誌には一日の様子を、介護日誌には計画がどの程度できたかを記入している。夜間記録は経過記録となっている。	○	毎日介護・日誌の中で、目標、具体策を確認し達成度や見返しがスタッフ間で出来ている。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ショートステイの許可は受けているが空きがない為実績は無い。事務所の母体が病院である為入院、また老人ホームへの受け入れ等相談に対応している。	○	病院、老人ホーム、グループホームと連絡をとりながら、その時々々の要望に応じる体制を作っている。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	2ヶ月に1回運営推進会議を開き、民生委員、町内会長、老人会長、利用者の家族の方にも来てもらって意見交換をしている。おどりや、お花のボランティアの方達も来て下さる。	○	地域の小学校、中学校、警察、消防等いろいろな機関とのかわりをもっていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のケアマネジャーさん達とのかわりは常に持っており、協力していただいている。	○	地域のケアマネジャーや、サービス事業者の方々も、見学に来ていただくようにする。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人の意向や必要性に応じて、必要があれば地域包括支援センターに相談するようにしている。	○	運営推進会議にこれまで一回も参加がない為に、今後働きかけていく。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が入所以前の病院をかかりつけ医とし、受診している。受診については、家族同行をお願いしているが、無理な時には、職員が対応し、必ず家族に報告している。母体である医療法人からも緊急時には往診もあり、いつでも24時間対応できる様になっている。	○	母体が医療法人である為に24時間体制で対応している。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>44</p> <p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>利用者の中でも認知症の専門医にかかっている方がいる。そのDr.に常に状態を報告し、薬の調整や支援の仕方を教えてもらうなどしている。</p>	○	<p>認知症の専門医に受診の際、家族に同行し、これまでの生活の様子もお話してもらう様になっている。</p>
<p>45</p> <p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>スタッフの中にも3人看護師がいて、スタッフ同士気軽に相談でき、健康管理が出来ていると思う。また、1週間に1度看護師が2ユニットのバイタルチェック、全身状態のチェックをしている。</p>	○	<p>毎日Dr.と看護師が往診に来てくれており、病院の看護職員にも、なんでも相談し、利用者の健康管理ができています。</p>
<p>46</p> <p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院中はスタッフが交代で面会に行き、家族、Drと話し合いをしながら早期退院に向け進め、めていっている。</p>	○	<p>ホームのかかりつけ医はもちろんのこと、どこの病院に入院されても、早期退院にむけての話し合いは進めている。</p>
<p>47</p> <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>終末期については、折にふれ家族、本人の意向を聴きながら、望まれる終末が送れる様話し合いをしている。また、重度化した場合の対応に係る指針、施設内での看取り、介護についての同意書を作成し同意をもらうようにしている。</p>	○	<p>重度化した場合の対応に係る指針 施設内での看取り介護についての同意書を作成し、常に家族と連絡を密にしながらか対応している。</p>
<p>48</p> <p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>ホームでできる治療、介護を伝え、今後どのようにしていきたいかを、家族と話し合う。ホームで過ごすことを希望されれば、かかりつけ医、ホームの職員、家族と話し合い、希望に応じている。</p>	○	<p>今後はさらに重度化や、終末期に向けた支援が大事になる為、チーム全体で話し合っていく必要がある。</p>
<p>49</p> <p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>できるだけ、スムーズに慣れてもらうように、関係者間で、十分な話し合いをして、環境の変化が少なくなるように努めている。</p>	○	<p>担当のケアマネの方と連絡を取りながらケアハウスでの生活に無理が出た為また、グループホームにかえって来られる事になった例もある。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会の時などに、職員の意識向上を図り日々の関わりを目立たずさりげない言葉かけをする様に話し合っている。また、個人情報保護法についても、常に話している。	○ 日頃の会話の中から、慣れに注意して初心を忘れない様に指導している。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者に合わせて声かけし自分で決める場面をつくっていく。意思表示が困難な方には表情を読みとるなどし、職員の押しつけにならないようにする。	○ 利用者と一緒に過ごす中、希望、関心、嗜好を沢山聞き出す様にしていく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の決まり事はなく、一人ひとりが自由に自分の生活に安心して穏やかに過ごしていただく様に見守っていく様にしている。	○ 常に利用者が主人公になる生活ができる様に話し合っている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	朝の着替えは、基本的に本人の意向で決め、見守りや支援が必要な時手伝う。本人の馴染みの美容室がある方は、お連れする。	○ 職員のユニホームは無く、普段家庭で生活している様に自由である。その事によって、会話もはずんでいる。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や新鮮なものを取り入れ、また利用者の好みや苦手な物をふまえたメニューにしている。利用者と一緒に買物したり、庭の畑の野菜を収穫したり、野菜の下ごしらえ等も一緒にしている。職員もテーブルをかこんで一緒に食事をしている。	○ 日頃、利用者にも「何が食べたいですか」と声かけするが、利用者と一緒に献立会議を開き、皆の意見を聞く機会を作っていく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	自宅にいる時と同様に、おやつや飲み物など、日常的に楽しめる様に配慮している。	○ 現在、お酒、たばこを利用される方はいないので、その様な方が入居された場合は考えていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりのサインを職員が把握しさりげない誘導につとめている。尿意のない利用者にも時間を見計らって誘導している。	○	失敗してしまった場合でも、極力本人が傷つかないように、周囲に気付かれない等の配慮しながら対応している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望にそってほぼ入浴を実施している。お風呂場も圧迫感を感じない様に、外に庭を作りゆっくりと入っていただく様にしている。	○	入浴を楽しむという事から、仲の良いお友達との入浴、浴槽から庭を眺められる風景でゆっくり落ちついて入ってもらうようにしている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の疲れ具合にあわせて休んでいただく。夜は温かい飲み物を一緒に飲みながら対話する。	○	落ち着かない方には、ゆっくりとお話を聴いてあげる様にする。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの力を発揮してもらえるように、お願い出来そうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。ドライブ、散歩、買物や地域の行事等の楽しみ事を利用者と相談しながら行っている。	○	利用者の方の生活歴の中から、できる仕事を見つけ、園内の飾り物を作ってもらったり、干し大根作り、そばうち、干し柿作り等をしてもらっている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお金を預かり、事業所が管理している。管理の出来る方については、少額のお金をいる人もいるので、買物時には自分で払ってもらうようにしている。	○	管理の困難な方については、自分で支払うという場面を作り、見守っていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の方のこれまでの生活の継続として、いつでも出かけられるようにしている。日常的に買物、散歩、ドライブ、外食と行っている。また、家族の方の希望もあり、月に1、2度自宅で一泊され、家族との関係を保っている人もいいる。	○	特別に決まり事はなく、本人、家族の希望をかなえられる様に支援している。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人が行きたいと思う所が出た場合には、まず家族にも相談し、協力をして頂き、支援している。	○	家族の協力が困難な方についても、職員側で検討し、希望がかなえられる様にしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入所者の方が、電話の希望があればかけてあげ、他の方に聞こえない様に自室でお話してもらおう。日頃の生活の写真をハガキにして利用者にも一言書いていただき送付。	○	家族の連絡がない時は利用者方の様子を知らせるようにする。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人の方が気軽に訪れる事ができるような雰囲気作りを心がけている。	○	全室たたみで、部屋でゆっくりしていただき、居心地良く過ごしていただいている。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の人権を守る事を認識し、どの様な事があっても、拘束は行わない様に実施している。	○	身体拘束の研修には必ず参加し報告している。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	すべての職員が鍵をかけることの弊害を理解しているが、事故防止の為玄関は鍵をかけている場合もある。入居者が外出しそうな様子を察知したら、声かけし、一緒に外出する。	○	玄関の出入りにチャイムが鳴るようにし、音が鳴ったら必ず玄関に行く事を週間づけている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の生活に合わせ行動を見守り、安全面にも注意している。夜間帯も同じである。	○	日中は三人の職員で目配り、気配りしながら安全に過ごして頂くよう注意している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全てを取り除くのではなく、嚴重に保管すべきものは保管管理を行っている。(カミソリ、はさみ等)	○	入所者の方で、顔そりをされる方がおられ、見守り、その後は保管している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々のヒヤリハットを記録し、職員の共有認識を図っている。万が一事故が発生した時は、事故報告書を作成し、今後の予防対策について検討し、家族への報告を行っている。	○	ヒヤリハットを使用し予防につなげて職員と共有している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全ての職員が、消防署の協力を得て救急手当てや蘇生術の研修を実施。 緊急時対応についてマニュアルの周知徹底を図る。	○	消防署からホームに来てもらい、救急手当て、蘇生術の研修実施
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を利用者と共に消防の協力を得て行い、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を実施。運営推進会議での協力を呼びかけている。	○	非常時の食事の用意をしておくようにする。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者一人ひとりの起こり得るリスクを職員皆で考え、家族等に対しても、具体的に説明し理解を得られる様に努めている。	○	来園の折、利用者の様子をお話しし、共に考え、一番良い方法を考えるようにしている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調や些細な表情の変化を見逃さず、早期発見に取り組み、バイタルチェックを行い変化時の記録をし、皆で対応し状況により受診につなげている。	○	一人ひとりの体調に注意し異変があればすぐにDr.に連絡し、支持をいただくようにしている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の内容を把握する為お薬ノートの作成、全職員が内容を把握出来るよう実施。薬が変更されたり状態変化がみられた時はすぐに記録をとり、協力医療機関との連携を図っている	○	各自の薬箱を用意し、直前に名前と薬の確認を二人で行って安全な服薬につとめている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便チェックの確認をし、食材の工夫や体操、散歩など体を動かす機会を設け、自然排便出来るように取り組んでいる。	○	便チェック表を作り、便秘の予防につとめ、食材にも注意している。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後はみがきの声かけを行い、力に応じて見守ったり、介助を行っている。利用者の気持ちを配慮しつつ一人ひとりの力に応じたはみがきの手伝いを実施。	○	毎食後声かけし、口腔ケアの見守り確認を行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況をチェック表に記録し、職員が状況を共有している。また、一人ひとりの嗜好を把握し献立している。利用者のできる力を利用し食事方法にも注意している。定期的に管理栄養士のアドバイスをいただき、チェックしてもらっている。	○	利用者の方にとって食事は、とても楽しみのひとつで、盛りつけ、茶碗皿などにも注意しながら食欲をそそる様にしている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症についてのマニュアルを作成し会議の折、説明して皆で共有している。本人、家族の同意を頂いただき、インフルエンザの予防接種も受けている。予防についても、ペーパータオルを使用し注意している。	○	季節の感染症発生状況の情報を取り入れ、感染症の流行に対応している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具、台所水回りの清潔、衛生を保つよう日々実施している。買いだめをしない様にしているのでもいつも冷蔵庫の中は残り物はほとんどない。	○	食材はできるだけ新鮮なものを利用したいので、多くの買物をしたりして冷蔵庫が一杯になる事はない。その都度買物に出かけるか、残りの材料を無駄にしようにしている。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の前には大きな柿の木があり心を和ませてくれている。入口には小さな庭もあり、四季の花々がかざられている。	○	和風的な感じのする玄関で、違和感なく入って来られる様にしている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールに居て、食事を作る作業を見たり、一緒に作業したり畳に座りゆっくりテレビを見たり外の庭をながめたり談笑し普段の生活とかわりなく居心地よく過ごせるようにしている。	○	どこに居ても安心感とやすらぎが保てる様に、これまでの生活とあまり変わらない家という事を大切に取り組んでいる。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やベランダに椅子、テーブルを置き一人で過ごしたり、また仲の良い利用者同士でくつろげるスペースを作っている。ホールには畳のスペースもあり、ゆっくりと座って過ごせる様になっている。	○	ベランダにはテーブル、イスを置き天気の良い日は気の合った仲間同士お茶を頂いたりして会話することもある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は全室畳を使用。落ちついて暮らせる空間作りに配慮している。家具なども使い慣れた自分のものを持って来ていただき、それまでの生活習慣に変化のない様に心がけている。	○	本人が安心して落ちついて生活できる様に部屋は畳で家具も入所前に本人、家族と相談の上持参していただきこれまでの利用者の生活を維持するようにしている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者の体調に合わせた温度調節と定期的な換気を行う様気をつけている。居室も、シーツ交換、布団干しをし、快適に過ごせる様に心がけている。	○	各部屋には、利用者の目につかない場所に消臭剤を使用し、快適に過ごせる様にしている。
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングにも畳を配置し、生活しながらリハビリが行えるように、配慮している。利用者の状態に合わせた歩行機等の使用により、自立を支援している。	○	廊下には手すり、風呂・トイレにも手すり等をつけ、安全かつできるだけ自立した生活が送れる様にしている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の目線にたち、常に備品、環境をチェックするようにしている。気が付いた事は、職員で相談し、速やかに対応している。	○	自室の入口に写真入の名札が貼ってある。トイレ等わかりやすい表示がしてある。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	車椅子のままベランダに出て外気浴ができ、お茶が飲める空間がある。庭には畑があり、利用者が日々楽しむ事ができる。	○	庭にはハーブ園もあり、イスやテーブルがあり利用者の体調に合わせた活動ができる。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域密着型として、地域の方々とのふれあいを大切に常に行事には参加し、またグループホームにおどり・お花のボランティア、野菜・くだもの・お花の差し入れをいただき、協力していただいている。グループホームにおいては、落ち着いた環境の中、平屋で庭・畑と、また全室畳、ホールには掘りごたつ・床の間・仏間と家庭的な建物となっている。また、浴室からは外の庭が眺められ、ゆったりと入浴が楽しめるようになっている。一日の行事の決まり事はなく、普段家庭で過ごしておられた環境と同じように家という感覚で過ごしていただいている。地域のグループホームの皆さんとの勉強会も立ち上げ、認知症ケアについての勉強会をして、利用者の皆さんが一日一日を穏やかに安心して暮らしていただける様パーソンセンタードケアを目指している。ターミナルケアについても母体の医療機関の協力を頂き、家族と相談しながら支援している。